

福島県PTA連合会会報
第67号_H17.07.15

P T A ふ く し ま

第 67 号

福島県 P T A 連合会
編 集 / 調査広報委員会
印 刷 / 泉 印 刷 所

親子で田植え（総合的な学習）

5年生児童とその保護者が、学校の南側の田んぼの一角を借りて、総合的な学習の一環として、一緒に田植えを行いました。

どの子も真剣に、お父さんやお母さんのアドバイスを受けながら、初めての田植えを体験しました。



【提供 福島市立御山小学校】

《主な記事》

会長挨拶・新役員紹介	P 2
第40回広報紙・学校新聞コンクール受賞校紹介	P 3
前会長挨拶・小中学校別懇談会概要	P 4
県P研究大会二本松大会案内	P 5
事務局から	P 6

県P連活動スローガン 子と親とが 共に育つ P T A活動を

子どもたちの未来のために



會長 宮本孝

私たちが親として、また、教育

者として個々の子どもたちに対応
していくのは当然のことですが、
それだけでは不十分な気がしま
す。人間は集団で社会を形成し、
協力しあって生きていく動物で
す。つまり、集団が良い方向に向
かわなければ、個々の幸せも無い
のです。直接は関与らない子ども
たちのことも含め、もっと大きな
視野に立つて社会的な問題の解決

の努力をしなければ、子どもたちは幸せになれないと思います。自分たちさえ良ければいいという利己的な考えを、まず親が改めない限り問題解決の糸口は見えてはこないでしょう。その考えから、私たちはまず連携を深め、十分意見を交換し、子どもたちの未来がより良い姿となるよう、世の中に訴えていかなければならないと思います。

これは個人的な意見ですが、今この国を主導されている方々の中に、本当に未来のことを考えている人がどれだけいるのか疑問に感じます。少子化は日本にとって致命的な問題なのに、子を持つ親の負担を軽減する努力を怠るばかりか、教育にかける予算は削減されるばかり。教育改革により全体の

学力は下がり、学力の高い子と低い子の格差もはつきりしてきました。「教育は百年の計」と言われます。そして教育が国を造ります。その教育がこの現状では、この国の未来を希望がもてる状況にするためには、大変な時間と熱意が必要です。そして出来ることをすぐ始める決断力が必要です。

今 私たちが子どもたちのために出来ることの一つに、道徳観を育成することが挙げられます。まず、インターネットやゲーム、有害図書などの問題にどう対応するか。みんなで意見を出し合い、真剣に方策を考え、PTAとして動いていきたいと思います。また、子どもたちに公共心を持たせるためには、自分の所属する集団への誇りを持たせなければならないと考えます。家族、学校、地域、国など、それぞれの集団を愛せるような考え方を、まず大人が示さなければならぬでしょう。

私たちは巨大な組織であることの利点を生かし、子どもたちの未来のために責任をもって活動してまいりましょう。

平成17年度 福島県PTA連合会役員一覧

▼副会長		▼監事		▼日本P評議員		▼母親代表		▼顧問		▼理事																									
宮本孝	渡邊守康	片岡学秀	皆川誠治	川村勝彦	佐藤晃	木村孝雄	村岡泉	吉田博道	根本紀太郎	古保猛	星聖司	結城子	村島勤子	結城省子	山田典子	早坂静江	早川敬介	小林憲一	小松良行	丹治時彦	吉田邦博	添田保雄	佐藤善嗣	佐藤喜一	齋藤裕二	五十嵐吉雄	龍川初江	遠藤一善	伊藤末吉	鈴木秀高	下重俊	湯田一秋	星文人	林洋一	伊藤孝俊
（郡山市P連・会長）	（安達地方P連・会長）	（西白河郡P連・会長）	（会津若松市P連・会長）	（相馬地方P連・会長）	（県小学校長会会長）	（県中学校長会会長）	（耶麻地方P連・会長）	（岩瀬地方P連・会長）	（いわき市P連・会長）	（達南P連・会長）	（南会津郡P連・会長）	（母親代表）	（県北・福島）	（県中・南・郡山）	（会津・会津若松）	（浜・いわき）	（元）会	（元）会	（前）会	（福島市P連・会長）	（伊達地方P連・会長）	（石川郡P連・会長）	（田村地方P連・会長）	（東白川郡P連・会長）	（北会津地区P連・会長）	（両沼地区P連・会長）	（大沼郡P連・会長）	（双葉郡P連・会長）	（県北ブロック会長）	（県中ブロック会長）	（県南ブロック会長）	（会津ブロック会長）	（南会津ブロック代表）	（相双ブロック代表）	（いわきブロック代表）

第40回県PTA広報紙 ・ 学校新聞コンクール 晴れの受賞校

第四十回PTA広報紙・小中学校新聞コンクールは、平成十七年四月十八日、福島民友新聞社で、福島県PTA連合会、福島民友新聞社主催のもとで審査が行われた。

応募作品は、PTA広報紙に百三十五点、学校新聞に十五点の応募があり、審査の結果、以下の二十三点が入選した。

〔PTA広報紙の部〕

◇最優秀賞

「枳の実」(郡山・枳山神小P)

「大 樹」(いわき・平一中P)

◇優秀賞

「あかね」(両沼・勝常小P)

「ひらの」(福島・平野小P)

「せいめい」(福島・清明小P)

「けやき」(福島・蓬萊中P)

「みくわば」(福島・渡利中P)

「みつぐり」(郡山・行健中P)

◇入 選

「せあぶり」(会津若松・湊小P)

「けやき」(福島・森合小P)

「つるがおか」(伊達・梁川小P)

「みなみ」(安達・二本松南小P)

「カリヨン」(会津若松・小金井小P)

「教育やぶき」(西白河・矢吹小P)

「薫だより」(郡山・薫小P)

「ひらくぼ」(いわき・平四小P)

「うえだ」(いわき・植田小P)

「城北時報」(会津若松・城北小P)

「たけのこ」(双葉・浪江小P)

「SAZANKA」

(福島・平野中P)

〔学校新聞の部〕

◇最優秀賞

「どんぐり」

玉川村立須釜中学校

◇優秀賞

「三中会報」

会津若松市立第三中学校

◇入 選

「居場所」

白河市立白河第二中学校

枳山神小「枳の実」

郡山市立枳山神小学校

現在の「枳の実」の形を作り始めて八年。作り上げる過程で願うことは、常に「保護者が今一番知りたいことを伝えたい」でした。

スタートした頃、百名は辛うじて超えていた児童数も、現在は八十名を切ってしまいました。そんな小規模校の枳山神小学校は、保護者全員が役員を担っています。だからこそ、家庭と学校の距離を近づけて、緊密なコミュニケーションがとれるはず。お便りや学級懇談で伝えられる情報

平一中「大樹」

いわき市立平第一中学校

PTA広報紙「大樹」は年四回発行で、五名の委員さんが制作に携わっています。

本年度初め、カラー印刷に取り組むことを決めましたが、そこには限られた予算という厳しい現実が待っていました。A4版一色で年三回発行を前提とした予算額でカラー印刷にしたら、一回の発行で予算の大半を使ってしまう試算が出たからです。かといって、各委員会が予算縮小になっっている現況下、増額はとても望

だけを受け身で待つだけでなく、どんどんこちらから突っ込んで聞いて行く。その情報を、できるだけリアルに、できるだけ読み手の側に立つて紙面に表現していこうと思いました。

これまで何度も取り上げて来た防犯に関する特集も、ひとつの事件を評論するのではなく、この地域で危険な区域はどこなのか？この地域で防犯に尽力してくれている人が誰なのか？という視点で疑問を設定し、答えを探していくことを基本と考え、作って参りました。その努力が、枳山神小学校だけの広報紙という、オリジナリティを生み出し、また読んで下さった保護者の方々に喜んで

めるものではありませんでした。

そこで「お金のない分知恵を出せ」を合言葉に、その打開策として、PTA広報紙の全国的な潮流となっているパソコン・DTPソフト・レーザープリンターを活用し、編集から印刷までの一切を広報委員自らの手で……という私達の新しい挑戦が試行錯誤の中で始まりました。

結果は、制作単価が予算内に収まったこともありましたが、私個人としては、何よりも、従来の印刷所経由の制作に比べ制作期間が大幅に短縮されることにより(本校では発行四日前に校了)、記事の鮮度が大幅に上がったことが特筆すべきことだと思います。

頂ける結果に結び付いたのだと思っております。

「枳の実」の制作は保護者全員参加が目標です。取材や編集の作業を行っているのは私たち教養委員ですが、アンケートや、教養委員会が企画した研修などを通して更に多くの保護者が参加できる紙面作りを目指したいと考えております。

この度、この大きな賞を再び頂きましたのは、一重に、ご協力下さいました保護者の皆様、地域の皆様、また先生方のご尽力の賜物と、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

(教養委員長 佐久間美和子)

その具体例として、先生・役員紹介や総会・活動方針を主とした第一号を制作期間二週間で完成し、四月末(従来は一学期末)に発行。卒業式に配付する第四号では、その一週間前に行われました卒業式の予行練習の写真を巻頭写真として使用することができました。

今回、初めてエントリーいたしました県PTA広報紙コンクールで最優秀賞をいただきましたことは、私達にとって驚きと同時に、新しいことにチャレンジし、一年間を通し、そのスキルを磨いていった本校広報委員の努力に対して顕彰いただいたものと心より感謝を申し上げます。

(広報委員 佐藤 友宏)



前福島県PTA連合会長 小松 良行

退任にあたって

去る六月六日、平成十七年度県PTA連合会第一回評議員会において、それまで混迷する新役員人事は、前事務局長と前副会長の皆様のご努力により、開催直前のご協議で何とかお取り纏めを頂き、この私を長い呪縛からお解き放し下さいました。

平成十二年四月、母校である福島市立瀬上小学校父母と教師の会会長を拝命し、翌十三年五月には福島市小中学校PTA連合会会長に推され、同年六月には福島県PTA連合会副会長、十六年度に会長に就きました。

折しも、完全学校週五日制の施行や新学習指導要領の導入等「教育改革」の真只中にあり、男女共同参画化社会への対応や池田小児童虐待事件を受けた学校安全対策等々、数多く懸案事項を抱えておりました。また、平成十四年度には、第五十一回福島県PTA研究大会福島大会が三千三百名の会員参加を得て盛大に開催されました。

もとより、浅学非才の身上ゆえ、在任中はその責務の重さに喘ぎ激務に耐える日々であり、ついには胃潰瘍を患うなど、幾度も抑し潰されそうになりました。しかし、この間を支えて下さいました副会長さん、そして事務局の先生方や関係機関の皆様からご指導ご鞭撻を賜り、また会員各位のあたたかいご理解ご協力を賜りましたことから、このような私でも、どうにか職責を全うすることが出来たものと存じております。

す。皆々様のご厚情に対し心から感謝と御礼を申し上げます。

さて、PTA活動の中で、今般は取り分け「家庭教育」の重要性を論ずる機会が増えてきましたが、どうしてもぶつかるのは社会的風潮の根底に横たわる経済至上主義的な効率化・合理化というカベでした。戦後六十年が過ぎ、人々は物質的には豊かな生活が送れるようになり、充実した時間が過るようになりましたが、今の子どもたちが健全に育っているのかというと、そうではないことが多く見られます。

人間は、物とは違い機械化や合理化では決して育てられません。時間が来たら食べ物を与え、夜遅くなったら布団に包んであげるだけではなく、そこには情緒による愛情が絶対に必要なのです。そして、その愛情が何によって共有されるのかといえ、毎日の楽しい食卓であり、一緒にお風呂に入ることであり、悪いことをしたら叱ってやることであり、いいことをしたら誉めてやることではないでしょうか。

ある保育所の話ですが、お母さん方手作りのお弁当を作ってほしいとお願いしたところ、ゼリリ状の栄養補助食品を持ってこさせた親がいたそうです。自分で作るのとは手間暇かかって面倒くさい。栄養さえ摂れれば問題はないという考えで、これこそが効率化・合理化の発想であり、子どもたちがお母さんのお弁当をどんなに楽しみにしているかという感性はまるでありません。

昨年、佐世保で起きた小学校六年生同級生殺害事件は、子どもの心を育てるとはどういうことなのかを親に突きつけた事件でしたが、少女の成育歴は「小さい頃から親に甘えない、手のかからない子」でした。情緒的に受容される体験をもたなかったために、少女の中に信頼感や安心感が育たず、命の重大性をも実感できないように成長してしまったと分析されています。私は、今後こうした事件が跡を絶たないような不安を感じ、危惧しておるのです。

一方では、欲しがるものなんでも買いつけ、雨が降ったからといっては子どもを学校まで車で送り迎えをする親。夏は暑くて可哀想だからと教室にクーラーを設置しろといひ、プールに入る時は日焼け止めを塗って、畑に行く時は虫けすスプレーを散布して欲しい等々、目にあまる過保護、過干渉ぶりです。就学を終え、子どもたちが生き馬の目を抜くグローバル社会に放り出されたとき、これでは立ち竦み自分の足で前へ進んで行けなくなってしまう。

子どもたちの成長や人格形成にとって何か一番大事なのか、幸せってなんなのかを考えると、物質的な豊かさや効率性・合理性を追求するばかりでなく、手間暇かけて育て、愛情にみちまわられているという実感を確認できること。世の中に対しても明るい気持ちで生きて行ける。そのような前向きな生き方の土台を作ることこそ真の家庭教育ではないかと思っています。

これにて結びと致しますが、福島県PTA連合会が宮本会長を中心に、今後ますますご発展致しますとともに、会員各位のますますのご活躍・健勝を心よりご祈念申し上げます。退任のあいさつと致します。

第十三回県PTA連合会

小・中学校別懇談会開かれる

六月三十日(木) 福島県青少年会館で、小・中学校別懇談会が開かれました。

今年は、小・中学校共通の視点として「父親の会」の現状と、小学校部会は「子どもの居場所に関するアンケート」結果に見られる問題点への対応策。また、中学校部会では、委託事業「父親の家庭教育を考える集い」第二年度の取り組みと今後の課題の二点について話し合いがなされました。

【小学校部会の概要】

最初に、参加されたPTA会長さんから、それぞれの地区の「父親の会」の設置の状況について報告があった。全県的に見ても父親の会を設置しなければならないという必要性は感じていないようである。普段のPTA活動(授業参観・懇談会等)役員の構成から母親のかかわりが多いが、何か行事(奉仕作業、男性の力を必要とするような内容)には、父親の役割が求められているようである。

その対応策としては、授業参観を日曜日に実施したり、地区別懇談会を夜実施するなど父親への理解を深める取り組みをしている例も報告された。ただ、小規模の学校の場合は父親が学校だけでなく、地域社会の

他の団体の構成員も同じメンバーなので、互いに情報交換が可能で、あえて父親の会を作らなくてもいいと感じているようである。

最後に助言者の勝見校長先生から、父親の会の意義は、父親の地域への



司会者の説明 (小学校部会)

デビュー、仲間づくりがキーワードであり、そのきっかけとして参加への働きかけが必要であることが助言された。また、司会の山田さんからは、父親のすばらしい企画力をぜひPTA活動に生かして欲しいことが提案された。

「子どもの居場所に関するアンケート」結果に見られる問題点への対応策については、小グループによる討議が行われ、その後全体協議が持たれた。

アンケートの結果からは、地域差はないこと、今のところ特に問題と

第54回PTA研究大会二本松大会のお知らせ

秀峰安達太良山を仰ぎ、阿武隈川の恵みを受け、豊かな自然に恵まれた安達地・二本松市で今年度の県PTA研究大会が開催されます。二本松大会では、二十一世紀を担う子どもたちの育成に向けて、PTA活動の真の姿を探求し、実のある実践活動の発表や情報交換とおして明日のPTAを創造する意義のある大会にしたいと願っております。駐車場等、何かとご不便をおかけするものと思いますが、会員の皆様の多数のご参加をお待ちしております。

◆大会主題

新しい時代を担う子どもたちに豊かな心と共に生きる力を育むPTA活動

◆期 日

平成十七年十月十五日(土)・十六日(日)

◆会 場

十五日：岳温泉各旅館及び
安達太良小学校
十六日：二本松市 城山総合体育館

◆分科会(会場)・テーマ

1 組織運営 (安達太良小学校)

学校を積極的に支援し、活性化を図る組織運営を工夫しよう。

☆パネルディスカッション

2 研修活動 (ホテル安達屋)

生涯学習の視点から研修活動を推進しよう。

☆提言十グループトークキング

3 家庭教育・小学校

(陽日の郷あつま館)

子どもたちに豊かな心を育む家庭教育のあり方を考えよう。

☆パネルディスカッション

4 家庭教育・中学校

(機平ホテル)

子どもたちに豊かな心を育む家庭教育のあり方を考えよう。

☆パネルディスカッション

5 健全育成 (ホテル光雲閣)

家庭・学校・地域社会の連携を深め、子どもたちの健全な育成に努めよう。

☆提言十グループトークキング

6 特別支援教育 (鏡ヶ池碧山亭)

特別に支援を必要とする子どもと共に学ぶ環境づくりを推進

しよう。

☆パネルディスカッション

以上、六分科会で行います。

◆記念講演

演題：「脳を知り、脳を育む」

講師：東北大学未来科学技術

共同研究センター教授

医学博士 川島 隆太氏

脳のどの部分にどのような機能があるのかを調べる「ブレインイメージング研究」の、日本における第一人者。計算や音読が子どもや成人の記憶力や認知力をこう進めることを研究により証明しました。

◆アトラクション

「二本松提灯祭ばやし」

二本松神社の秋祭りは、氏子の七町内からそれぞれ太鼓台が繰り出し祭ばやしを奏します。祭ばやしの曲目も多く、多彩で変化に富み、迫力ある演奏をお聴きください。

◆宿泊に関して

「第二次案内」でお知らせいたしましたとおり、宿泊施設の申し込みは、JT B東北福島支店に直接お願いいたします。なお、宿泊施設の割り振りは一任させていただきますようお願いいたします。

◆大会事務局

「二本松市立二本松第一中学校」

〒960-0904

二本松市郭内2-56-1

(TEL・FAX

0243-23-5970)

なることもないことなどが話し合われた。子どもたちの様子はというと、異年齢集団での遊びなど、たて社会での体験不足や関係の希薄さが指摘された。また、子どもたち自身がどう過ごしてよいのか、他とどうかわっていかねばよいかわからない。その点から、われわれ大人が、安全面に配慮しながら、子どもの居場所の設定を考えていく必要があることも確認された。

最後に勝見先生から親子の体験を一緒にすることの大切さ、親学のすめ、させられるからすることへの発想の転換、読書の進めなどについて助言をいただいた。

【中学校部会の概要】

中学校部会は、小グループによるパズセッションが行われ、その後各グループの代表から、話し合いの概要が報告された。

主な内容は、なぜ、父親が注目されているのか原点に戻ってみることに大切さ、役割モデルとしての父親の姿、その意味から、父親の後姿を見せるために、奉仕作業等、親子で実施することも考えていく必要があるのではないかという意見も出された。

また、中学校が荒れている場合、保護者が学校に行かない例も報告された。さらに、家族形態が多様化して、片親の家庭も増えている。そのような状況の中で、父親と限定するのはどうかという意見も出た。

また、行政側に父親がPTA活動に参加できる社会的な環境づくりを要望していくことが重要であり、家庭の中でも、子どもが活躍する場を作つてやり、家族の中で必要とされる人間なのだという自覚を持たせた。などの話し合いがなされた。

委託事業「父親の家庭教育を考える集い」第二次の取り組みと今後の課題では、毎年同じことをテーマにして行うのでは効果が上がらないこと。トップダウンの計画ではなく、ボトムアップ形式の活動にしていこうと、いろいろな面が見えるのではないかと意見も出された。

PTA会員が、自分の子どもたちの現状を知らない状況も報告され、もつと単Pで、父親に呼びかけ、草の根運動的に活動を進めていくことも大切であること。PTAの情報をもとに発信し、父親が参加せざるを得ない状況にしていこうとも、考えていかなければならないことが確認された。



グループ討議 (中学校部会)

▶二本松提灯祭り



平成17年度県P行事予定

月	主な行事	
6	評議員会	6日(月)
	小中学校別懇談会	30日(木) 午前
	理事会・常置委員会	30日(木) 午後
7	役員・総務委員会合同会	12日(火)
8	日P研究大会愛知大会	26日(金)
		・27日(土)
	郡市P母親代表懇談会	19日(金)
9	東北P北村山大会(山形)	10日(土)
		・11日(日)
10	理事会・常置委員会	14日(金)
	県P研究大会二本松大会	15日(土)
		・16日(日)
11	県教育長との懇談・要望	日時未定
	県議会各派への要望	〃
1	理事会・常置委員会	25日(水)
2	評議員会	24日(金)

※会報発行は、7月、12月、3月の3回です。

安全互助会から

福島県PTA安全互助会は、昭和四十九年創立以来、園児・児童・生徒(以下学童)の学校管理下外及びPTA会員のPTA行事参加中の傷害関係補償について、数度の改定を加え補償内容の改善に努力してまいりました。

平成十八年度
からの変更点

平成五年度には学童の傷害補償を登下校時(学校管理下内)に広げ、平成十一年度からは、学童保険をすべて賠償責任付のコースとし、お支払いの際には賠償事故の自己負担額をなくすることなどの改定をし、多くのPTA関係者から好評をいただいております。

補償の開始時期は、四月一日になっているにもかかわらず、入会案内が四月になってから、人数や加入コースの確認は、会費納入時の五月末日となっています。保険制度上からは、入会申込みをして補償が開始されることになるので、今回保険制度の趣旨に沿った変更をすることになります。

変更点

○入会案内……………四月↓一月
○入会申込……………五月末日↓三月十日。どのコースに加入するかもここで報告していただくことになります。

※会費納入は、これまで通り五月末日です。加入人数の最終確認をします。

万が一、事故が発生したら

① 学校に連絡してください。

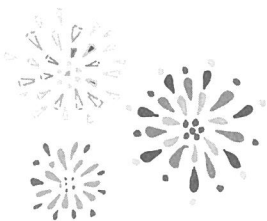
学校管理下外(ただし登下校を含む)の事故に対しての補償となるため、保護者からの連絡を受けて手続きをすることになります。

各学校には、担当の先生がおりますので、その先生を通して安全互助会に報告されます。

② 事故報告書はFAXで

報告書には、「傷害事故報告書」と「賠償事故報告書」の二種類あります。

FAXいただいた報告書を見



て、該当の有無や必要な手続き等について回答いたします。それに基づいて申請事務を進めます。

③ PTA会員の事故の場合

PTA主催・共催の事業に参加しての事故に限定されます。なお、自宅を出て帰宅するまでの間も含まれます。

見舞金などの申請にあたってはPTA主催・共催事業であるという関係書類の添付が必要となります。

編集後記

六月一日より、小松前事務局長の後任としてお世話になっております古内です。微力ながら、県PTA活動の支援をしておりますので、よろしく願いたします。七月発行の「PTAふくしま」が全会員配付となつて三年目。県P連の活動をご理解いただければと願っております。

(T・H)



福島県PTA連合会 (TEL 024-545-5982 FAX 024-545-5990)

《提携損保》 共栄火災海上保険株式会社

〒960-0231 福島市飯坂町平野字三枚長1-1 JA福島ビル2F

TEL 024-554-3006(代) FAX 024-554-3023